平成19年8月25日付　南紀州新聞

熱心に耳を傾けた皆さん＝23日、那智勝浦町の町体育文化会館

県民全体で世界遺産保護を

70人が参加　那智勝浦町で講演会

「紀伊山地の霊場と参詣道」の世界遺産登録から3年経過した今、改めて世界遺産について考えてみようと和歌山県世界遺産熊野地域協議会は23日、辻林浩県世界遺産センター長を講師に招いて、「世界遺産講演会」を那智勝浦町体育文化会館で開催した。

辻林講師は「祈りの道と文化的景観」の演題で、世界遺産とは条例に基づいてユネスコのリストに登録されている記念工作物、建造物、遺跡、自然地域など世界に通用する遺産で、人類のかけがえのない財産を後世に継承するものと説明。登録にあたって熊野古道はエリアが広いため、統一した保護計画と保護組織をユネスコから求められたこと、保全状態を定期報告する義務があることなど紹介して、一人一人に「守っていこう」のスタンスを求めた。

熊野三山や那智山など紀伊山地の霊場や熊野古道をプロジェクターで写しながら一つ一つ説明した辻林講師は今後の課題として、市・町・県の情報共有、官民の連携、保護意識の啓発、環境および景観の保全地域拡大や周知方法の拡大などを挙げ、「絶えた産業を復活させるなど、世界遺産を介した活性化へいろいろな可能性を考えながら、この世界遺産を守っていかねばならない」「熊野の文化的景観を次世代および後世に伝えることができるよう、地域だけでなく県民全体で取り組む必要がある」と述べた。会場には約70人が詰め掛け、熱心に耳を傾けた。

講演する辻林浩さん

辻林講師は長年、県教育委員会に勤務し、平成12年度から世界遺産登録推進室長として世界遺産の登録に尽力し、退職後、現在の職を務めている。